お知らせ

下記のお問い合わせ先：
支援部 042-374-2101（直通）

1月29日（金）に予定しております、
ＳＴ科講習会は好評につき定員に達しました。
受付は締め切らせて頂いております。
お問い合わせ有り難うございました。

助成：公益社団法人あゆみの箱

「ゆるゆら会」～音楽療法～

対象者：
ひとりで座ること、見ること、聴くことが苦手な就学前のお子さんとその保護者の方
日程：3月22日（火）
時　間：10～11時
定　員：6組程度
参加費：ひと家族1,000円（税込）
講　師：
音楽療法士
福井友子先生
須崎由美子先生

親子で楽しく からだをうごかそう!

対象者：
ひとりで座位をとることが難しい小学2年生までのお子さんと保護者

日程：3月30日（水）
時　間：10～11時
定　員：10組程度
参加費：ひと家族 1,000円（税込）
講　師：
上級障害者スポーツ指導員

地域療育等支援事業のご案内

外来療育等支援事業（療育相談）
運動面やことばの発達、集団生活にうまくなじめないなどのご相談に応じます。

施設支援一般指導事業
発達のご心配や障害のある方を受け入れておられる地域施設、機関職員の方を対象にご相談に応じます。

訪問療育等支援事業
地域施設や家庭へ赴いて健康診査や介護指導などを行います。

費用は 無料です。

第15回　島田療育センター公開シンポジウム

地域で共に生きる

◇主催：島田療育センター
◇助成：読売光と愛の事業団
◇後援：多摩市・町田市・読売光と愛の事業団
・東京都重症心身障害児（者）を守る会
・社会福祉法人 ボワ・すみれ福祉会

かつて重度心身障害児者の生活は病院か施設を中心に考えられていましたが、現在では地域生活の選択が主流になりつつあります。時代の変化とともに地域サービスは広がりを見せていますが、個々の生活に沿った支援の展開には未だ課題が残ります。今回のシンポジウムでは、障害児者とその家族がその人らしく生活していくための支援と、長く地域で暮らしていくための支援体制を考えていく機会としたいと思います。

基調講演

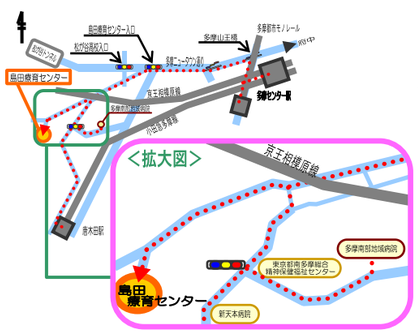
戸枝 陽基 氏
社会福祉法人むそう 理事長

パネルディスカッション

● 話題提供
・ 関根 まき子 氏（社会福祉法人ボワ・すみれ福祉会）・ 杉山 佳子 氏（保護者）、杉山 公介 氏（自立ステーション つばさ 会員）・ 大瀧 潮（島田療育センター 医師）

◇日　時：平成28年2月7日（日）13:00～16:20
◇会　場：島田療育センター 厚生棟（多摩市中沢1-31-1）
◇参加費：1000円

お申し込みはホームページでもお受けしております。
http://www.shimada-ryoiku.or.jp
ご質問はお気軽に支援部まで。



〈徒歩〉
多摩センター駅下車
→約20分

〈バス〉
多摩センター駅
バスターミナル12番乗り場
「南部地域病院」行き
→約7分
終点「南部地域病院」下車

編集後記

祖父の教えで私と父親は幼年期から東京ヤクルトを応援しています。昨年は14年ぶりにリーグ制覇をしました。14年前は祖父、父共にまだ元気で3人で球場によく足を運び、勝利した時は試合終了から1時間は傘の花が開いたままでした。14年の間に祖父は他界、父は2度の手術経て社会復帰など色々な出来事がありました。時の流れの中で変わるもの、変わらないもの、日々の凸凹など沢山ありますが、“贔屓しているチームが勝つことで気持ちが上がり、元気になることは変わらない”ということを昨年出向いた試合で傘を開いている父を見て実感しました。今年も父、私共に元気になるべく、球場に足を運び、傘の花を咲かせられたらと思います。連覇を期待しています。Go！Go！Swallows！！（湯本）

編　集　：　社会福祉法人 日本心身障害児協会
島田療育センター　支援部
住　所　：　〒206-0036 東京都多摩市中沢1-31-1
電　話　：　042-374-2071（代表）
E-mail　：Info-room@shimada-ryoiku.or.jp
ＵＲＬ　：　http://www.shimada-ryoiku.or.jp

NEW ネットワークしまだ
Network Shimada
発行者　島田療育センター
院長　木実谷 哲史

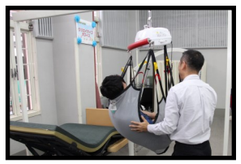
島田療育センター　ミニ福祉機器展

くつろぎフェスタ 2015

くつろぎフェスタは、島田療育センター内にある「情報資料室くつろぎ」が行う情報提供の1つで、2年に1度の頻度で開催をしているミニ福祉機器展です。4回目の開催となった今回は、平成27年11月8日に当センター厚生棟で実施しました。近い時期にH.C.R国際福祉機器展といった大規模な展示会が開催されていますが、広い会場での移動が大変で参加が難しいこともあります。くつろぎフェスタは、このような方を対象に、気軽に参加できるような小規模な福祉機器展として開催を続けています。

展示された車椅子

今回は車椅子などを扱う企業として「でく工房」「川村義肢」「コーヤシステムデザイン」「テクノグリーン」の4社、電動リフトを扱う「クリエイティブオフィス」、コミュニケーション機器を扱う「アクセスインターナショナル」、こども脳機能バランサーなどの学習ソフトを扱う「レデックス」の計7社が出展しました。また、栄養補助食品を扱う「ネスレ日本」「クリニコ」「明治」の3社は、試供品の提供という形で出展していただきました。


リフトの実体験コーナー

ブースの様子

当日はあいにくの雨天ではありましたが、27組64名の方がご参加くださいました。お子様連れのご家族や施設の職員が会場を訪れ、各ブースで出展者の話を熱心に聞いていらっしゃいました。午後には約40名の入所利用者も会場を訪れ、1日を通しての参加者は100名以上となりました。参加された方からは、「出展社とゆっくり話せてよかった」「実際の製品に触れ、具体的な説明が聞けてよかった」といった前向きなご意見をいただきました。次回はまた2年後の開催を予定しています。

会場の様子

最後になりますが、今回は「でく工房」「川村義肢」「コーヤシステムデザイン」「クリエイティブオフィス」「レデックス」の5社から協賛金をいただき、くつろぎフェスタの開催費に充てさせていただきました。協賛してくださった企業様と、雨の中足を運んでくださった来場者の皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。

（リハビリ工学士　神田 水太）

体幹を育てる運動遊び
～親子で楽しく遊ぶポイント～

平成27年度 島田療育センター 作業療法科 保護者向け講習会

10月24日(土)と、11月28日(土)に「体幹を育てる運動遊び　～親子で楽しくできるあそび方のポイント～」をテーマに作業療法科保護者向け講習会を開催しました。例年はセンター内で行っていましたが、今回の講習会は「パルテノン多摩」の会議室をお借りして行いました。

講習会では、運動遊びについてお話しする前に、最近よく耳にする「体幹」という言葉が、そもそも体のどこを指すのか、そして体幹がしっかりするとはどういうことなのか、どうして体幹がしっかりと育つことが大切なのか、また、お子さん達の体幹が育っていく過程について、普段のお子さんの様子を振り返ったり、体験を交えながらお話しさせていただきました。そしてその後、「体幹を育てる運動遊び」を、しがみつく遊び、のびあがる遊び、手で支える遊び、ぐっとふんばる遊び、バランスをとる遊びの5つの遊びに分けて、参加された方に実際に遊びを体験していただきながらお伝えしました。また、遊ぶ時のコツやステップアップの仕方、お子さんへの声のかけ方等についても具体的にお伝えしました。

今回の講習会には、保護者の方をはじめ、保育園、幼稚園、学童クラブの先生と、様々な方にご参加いただきましたが、体験の感想を活発に出しあってくださり、明るい雰囲気で行うことができました。参加された方からは「実際に遊びを体験できて分かりやすかった」、「日常生活でできる遊びや工夫について知れてよかった、早速試してみたい」等、嬉しい感想もいただくことができました。また、「つい子どもに、頑張りなさい！と言ってしまうけれど、子どもは結構大変な中、頑張っていたんだなと思った」等といった感想も聞かれ、お子さんの気持ちや、普段のお子さんとの関わりに関する感想もいただきました。今後も、保護者の方や地域の方々に向けた取り組みを行っていければと思います。

（作業療法士　飯田　めぐみ）

体験時の様子

終了後の質問時の様子

会場の様子

発達支援センター第11回心理講演会

読み書きに困難さのある子どもの支援の実際 ～学校や家庭でできること～

発達支援センターでは、地域の皆さんと発達障害に関する理解を深めていくことを目的に、毎年講演会を実施しています。第11 回となる今回は平成27年11月29日（日）に『読み書きに困難さのある子どもへの支援の実際～学校や家庭でできること～』と題して、昨年度に引き続き常葉大学教育学部の後藤隆章先生にご講演いただきました。その中から、特に印象深かったお話を中心にいくつかご紹介いたします。

後藤 隆章 氏

前半の講義では、昨年度のおさらいとして、そもそも読み書きの難しさとはどういった特性によるものなのかご説明いただきました。また、学習に関するよくあるご相談の１つとして、お子さんの集中力の続きにくさに触れ、学習の中で“できた”“わかった”という体験が少ない子どもは、学習集中力が続きにくいことを指摘されていました。もちろん集中力に個人差はありますが、集中力が続きにくい子どもであっても得意なことや“なぜだろう”“答えは何だろう”などと興味・関心がある内容に対しては比較的集中して取り組めることが多いとのことでした。集中力が続かないのは子どもの特性だから、と決めず、課題の内容や難易度を子どもの興味やレベルに合わせて、子どもが“わかった”“できた”と感じる学習体験を積み重ねることがいかに大切か、お話しくださいました。

具体的な対応方法の話題では、読みの苦手なお子さんは、文章を読む前に新しく出てくることばや漢字を予習しておくと、ことばの予測がしやすくなり文章が読みやすくなることがあるそうです。その他、実際の指導の様子を例に挙げていただいたり、PCでダウンロードできる漢字や読み書きの教材を多数ご紹介いただいたり、盛りだくさんの内容であっという間の2時間半でした。

参加者は保護者や教員、学童の指導員、心理士など様々な立場の多数の方々にご参加いただき、多くの方が関心を寄せるテーマであると改めて実感しました。今後も、こうした有意義な講演会を企画していきたいと思います。

（心理判定員　増冨　真耶）

会場の様子⇒

新　第19号（2016年1月8日 発行）

地域機関とのつながり
～ 派遣事業・相談事業を通じて ～
～こばと第一保育園～

こばと第一保育園は昭和４６年５月、多摩ニュータウン創生の頃、多摩市の諏訪４丁目に開園した４４年目の保育園です。本園と島田療育センターとは「地域療育等支援事業」への依頼を通して、“施設支援一般指導事業”の訪問相談で大変お世話になっています。子どもの保育園での様子を実際に見ていただき、言語聴覚士、作業療法士、心理判定員の先生より専門的な立場からの指導を受け、アドバイスをいただいています。また、講師として先生方をお招きしての園内研修も定期的に実施もしております。いろいろ学ぶことができ、とても感謝しています。

「ＡＢＣ分析」

平成２５年度からの取り組みで、保育の質の向上を目的とした園内研修で、心理判定員の山本先生より、子どもの応用行動分析を学んでいます。子どもが行動を起こす前には、「A(きっかけ)があり、B(行動)からC(結果)」につながる分析の仕方や、子どもの持つ“特性”について職員全体で共通理解が図られ、子どもとの関わり方や対応のヒントにつながりました。研修を重ねるごとに、職員間で同じ視点で“子どもの見立て”ができるようになってきており、保育に対する見通しが持てる機会になりました。

「感覚統合」

平成２６年度からは、作業療法士の高橋先生から「感覚統合」について研修を受ける機会も設けております。感覚の偏りがあることで“気持ち・行動”の面で落ち着きのなさや、“からだの動き”で姿勢が崩れやすくなることが子どもの姿に出ることを知りました。乳児クラスから“体幹”を育てていく大切さを学び、“体幹”を鍛える運動を意識して生活や遊びの中でとり入れることで、幼児クラスでは子どもたちの話を聞く時の“姿勢”に変化が見られ始めています。保護者にも保育参観の場で実際に運動の様子を見てもらったり、園便りで取り組みの経過を伝えることで、ご家庭でも保育園と同じように運動を取り入れているという声が担任に伝わるようになっています。

研修を通して、“子ども一人ひとりの特性の理解”と“感覚の偏りについての理解”が深まっています。

（こばと第一保育園　神田 治美）

園内研修時の様子

講師派遣事業のご案内

講演会・学習会・職員研修などのご依頼をお受けしています。

ご相談内容に沿って専門スタッフが対応します。
詳細はお問い合わせ下さい。　支援部　042-374-2101　まで

質問：
ことばは増え、おしゃべりになってきたのですが、数はまだ難しいようです。数を教えるには、どうしたらいいですか。

～アドバイス：言語聴覚士 池上 陽子～

数の理解には、いくつかのステップがあります。テレビのチャンネルを「２ばん、みたい！」と言って変えたり、「いち、に、さん…じゅう！」と１～１０まで順番に言えたとしても、「３個ちょうだい」には「？」となることも。子どもが数を本当の意味で理解するようになるには、数をかぞえる前にたくさんの経験が必要です。

まずは分類。いろいろな玩具の中からミニカーだけを分けたり、ちょっと発展させて色や大きさ、用途で分けてみたり…。お片づけボックスを用意して「ブロックはこっち」「お人形はこっち」というのもいいですね。そうして子どもたちは「どっちが多いかな？」「こっちが少ない」、「こっちが大きい」「こっちは小さい」といった比較する目を身につけていくことができます。

それから１対１対応も大切です。お皿にひとつずつお菓子を配ったり、家族の席にひとつずつコップを配る。おままごとでもいいし、お手伝いとして本物の食器を使っても楽しめそうです。１つの枠に１枚のシールを貼ることも１対１対応です。カレンダーに、お子さんが好きなキャラクターのシールを一つずつ貼っていく遊びもいいかもしれません。

１～１０まで数を唱える力も必要です。最初のうちは４から先が言えなかったり、必ず８が抜けたり、なかなか言えないかもしれません。でも大丈夫！繰り返していくと子どもたちは自然と覚えていきます。お風呂の中で、あるいは階段を上りながら、手を叩きながらリズムをつけて言ってみるのもいいですね。いきなり１～１０が難しければ、まずは１～３まで。次に５まで。そして８、最後に１０まで、と少しずつ長くしてみるとよいかもしれません。

お菓子やミニカー、お散歩で拾ったどんぐりなどなど…。ぜひお子さんの興味のあるもので、楽しく数えてみてください。